



2024年度 第3四半期 決算説明

証券コード：6908

2025年2月4日

IRISO 電子工業株式会社
IRISO ELECTRONICS CO.,LTD.

私たちは、社会やお客様の期待を超える「つなげる」を実現します
Together, surpassing expectations by empowering connections
to enrich society and delight people.



-  **I. 2024年度第3四半期 業績概要**
- II. 構造改革**
- III. 2024年度 業績見通し**
- IV. トピックス**

2024年度3Q累計実績

- 前年同期比で、売上高 + 2.5%の421億円、営業利益▲19.0%の38億円
- 売上高は、日欧米地域の市場低迷継続するが、モビリティ市場のパワートレイン分野での中国地域、並びに高速伝送対応可動BtoBコネクタの伸長で増収
- 利益面では、材料・エネルギー・輸送費等の高騰による悪化を、固定費の抑制、原価低減により、操業度減による減益幅を抑制し、2Q並び3Qにおいて、営業利益率11%超を維持
- 営業キャッシュフローマージン率は、24.1%と20%超を維持

2024年度業績見通し

- 3Qでの上振れと為替状況を踏まえ、売上高、営業利益、経常利益を上方修正
- 生産拠点の役割見直しによる生産効率改善、ERPによる間接業務効率改善実現に向け、構造改革を実施
構造改革費用計上により、当期純利益は下方修正

2.業績概況

単位：百万円

	2023年度 3Q累計	2024年度				2024年度 3Q累計 前年同期比			
		1Q	2Q	3Q	3Q累計	増減額	増減率	為替影響	為替影響 除き
売上高	41,140	12,534	14,624	15,009	42,168	+1,028	+2.5%	+2,215	39,953
営業利益	4,792	190	1,929	1,762	3,881	▲910	▲19.0%	▲100	3,981
営業利益率	11.6%	1.5%	13.2%	11.7%	9.2%		▲2.4pts		10.0%
EBITDA	9,466	1,972	3,645	3,595	9,213	▲253	▲2.7%	▲100	9,313
EBITDA率	23.0%	15.7%	24.9%	24.0%	21.8%		▲1.2pts		22.1%
為替:ドル/円	142.76	156.53	148.37	154.16	152.87	+10.11	+7.1%		

【ご参考】ERP切り替えによる売上前倒し影響除き

単位：百万円

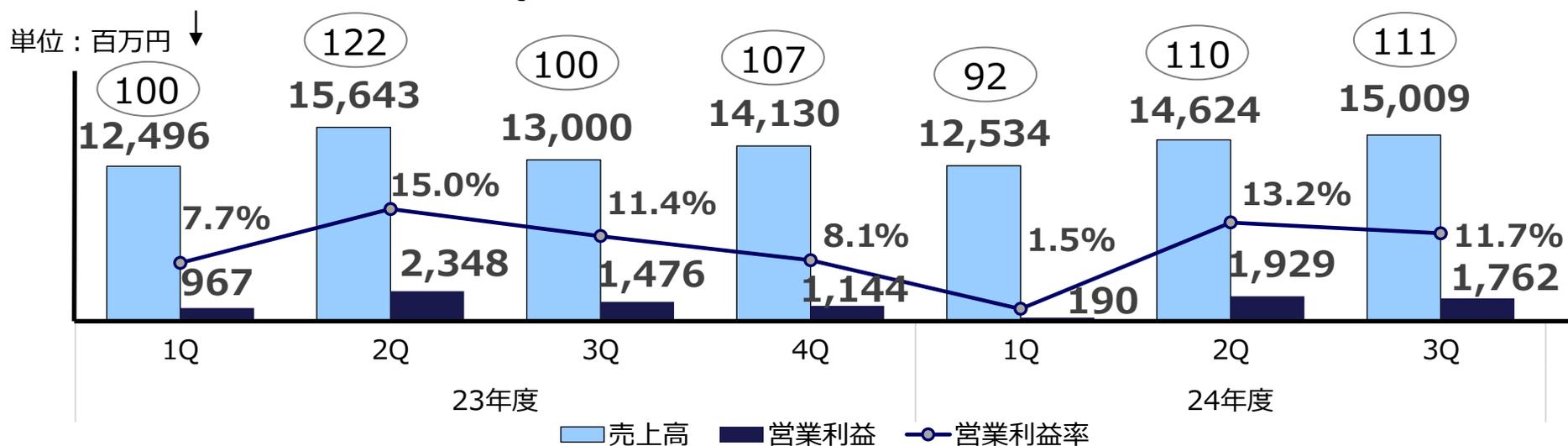
	2023年度 3Q累計	2024年度				2024年度 3Q累計 前年同期比			
		1Q	2Q	3Q	3Q累計	増減額	増減率	為替影響	為替影響 除き
売上高	41,140	13,234	14,624	15,009	42,868	+1,728	+4.2%	+2,215	40,653
営業利益	4,792	519	1,929	1,762	4,210	▲581	▲12.1%	▲100	4,310
営業利益率	11.6%	3.9%	13.2%	11.7%	9.8%		▲1.8pts		10.6%
EBITDA	9,466	2,300	3,645	3,595	9,541	+75	+0.8%	▲100	9,641
EBITDA率	23.0%	17.4%	24.9%	24.0%	22.3%		▲0.7pts		23.7%

■ ERP切替影響を除く前年同期比で、売上高+4.2%増収、為替影響を除き▲4.8億円減収。操業度減等により営業利益は▲5.8億円減益

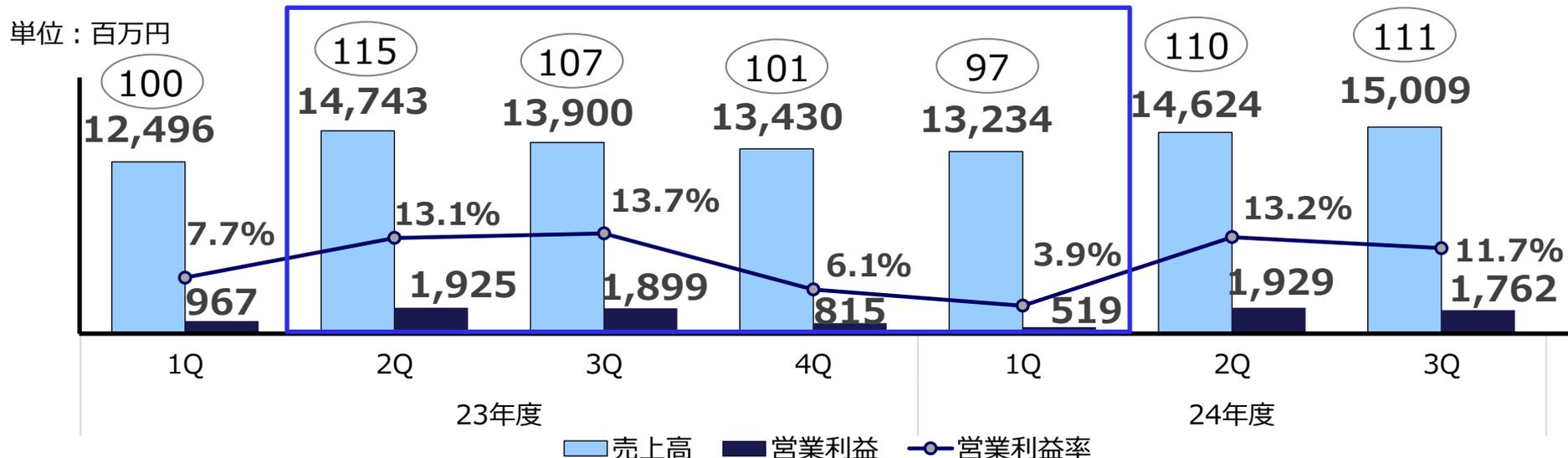
※EBITDA：営業利益+減価償却費

3. 四半期別売上高・営業利益推移

除く 為替影響、23年度1Qを100とした指数



【ご参考】ERP切り替えによる売上前倒し影響除き(23年度2Q←3Q、23年度4Q←24年度1Q)



4. 2024年度3Q 連結決算の概要

単位：百万円

	23年度 3Q累計	構成比	24年度 3Q累計	構成比	増減額	増減率
売上高	41,140	100.0%	42,168	100.0%	+1,028	+2.5%
モビリティ	35,429	86.1%	36,369	86.2%	+939	+2.7%
コンシューマー	3,272	8.0%	3,588	8.5%	+316	+9.7%
インダストリアル	2,438	5.9%	2,210	5.2%	▲227	▲9.3%
売上原価	28,076	68.2%	28,986	68.7%	+910	+3.2%
販売管理費	8,271	20.1%	9,300	22.1%	+1,028	+12.4%
営業利益	4,792	11.6%	3,881	9.2%	▲910	▲19.0%
税引前利益	5,316	12.9%	3,960	9.4%	▲1,356	▲25.5%
四半期純利益	4,294	10.4%	2,917	6.9%	▲1,376	▲32.1%
EPS	182.56円		127.64円			
為替レート	ドル：142.76円		152.87円		+10.11円	+7.1%
期中平均	ユーロ：155.19円		164.91円		+9.72円	+6.3%
	元：19.96円		21.21円		+1.25円	+6.3%

【ご参考】ERP切り替えによる売上前倒し影響除き

売上高	41,140	100.0%	42,868	100.0%	+1,728	+4.2%
モビリティ	35,429	86.1%	37,069	86.5%	+1,639	+4.6%
営業利益	4,792	11.6%	4,210	9.8%	▲581	▲12.1%

5. 売上・利益変動要因(23年度3Q累計比)

単位：百万円

	売上高	営業利益	営業 利益率	要因
23年度3Q累計 実績	41,140	4,792	11.6%	
ERP切り替え影響	▲700	▲330		24年1Q→23年4Q前倒し影響：7億円
為替影響	+2,215	▲100		USD: 142.76円→152.87円、107% EUR: 155.19円→164.91円、106% CNY: 19.96円→21.21円、106%
物量減	▲486	▲230		
材料費増		▲830		素材市況価格高騰
固定費増		▲335		賃金引上げ、エネルギー費高騰、新ERP・秋田 新工場建設費用増を、操業度減に対応した 人員・経費抑制推進
原価低減他		+915		収益構造改善による原価低減、売価ダウン他
変動要因 計	+1,728	▲580		
24年度3Q累計 実績	42,168	3,881	9.2%	

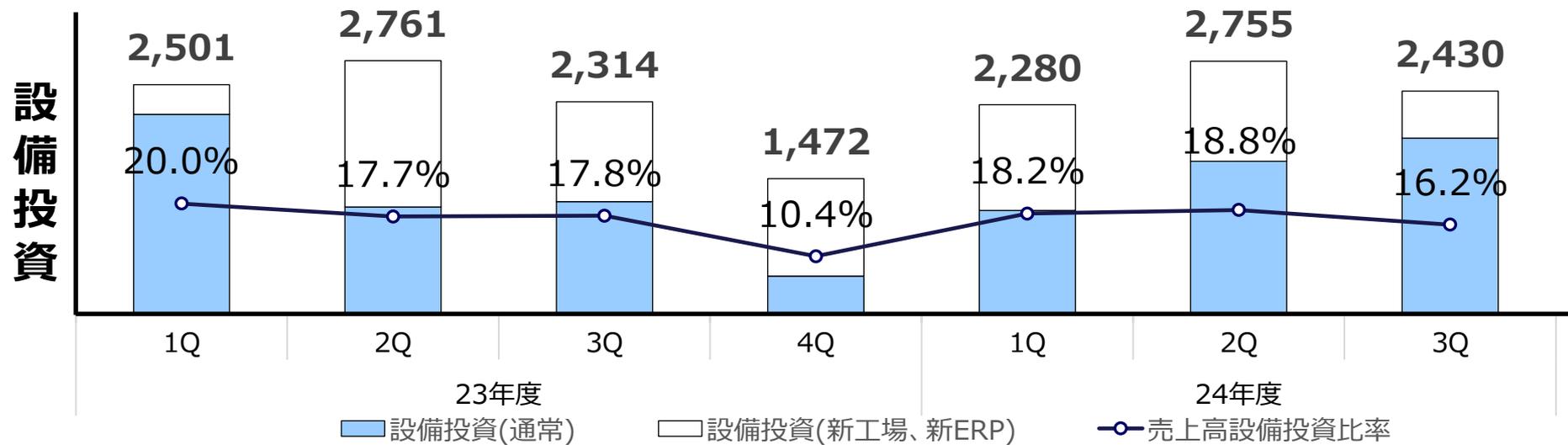
6. 財務狀況

単位：百万円

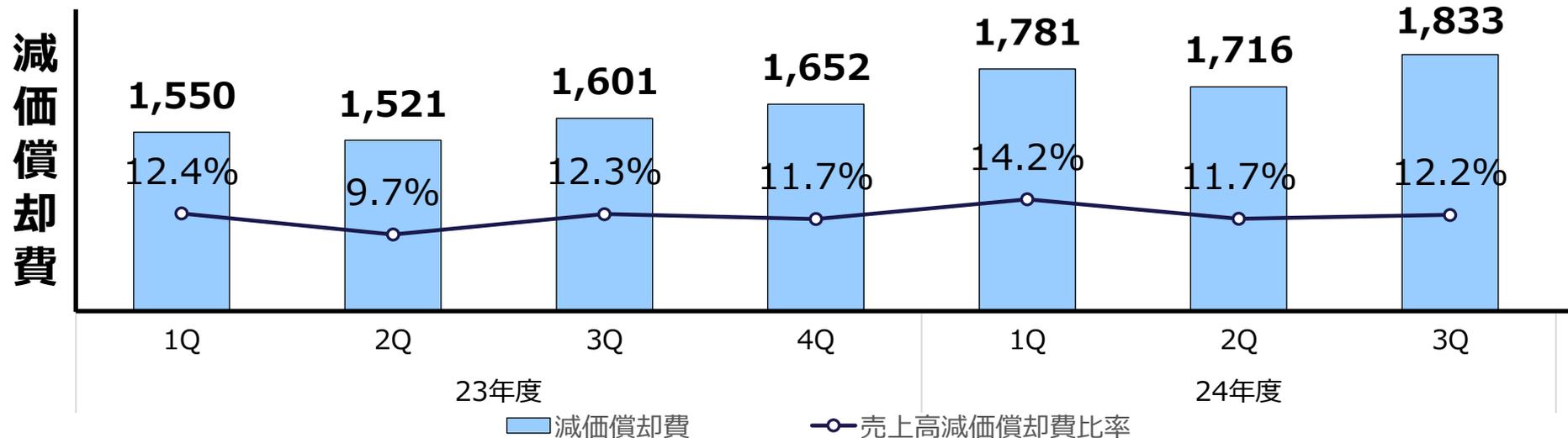
	23年度	24年度 3Q	前年末比
流動資産	56,093	56,291	+198
現金及び預金	26,692	26,347	▲345
売掛債権	15,010	14,456	▲554
棚卸資産	12,616	13,343	+727
固定資産	40,762	42,340	+1,578
資産合計	96,856	98,632	+1,776
負債合計	19,839	22,680	+2,841
買掛債務	5,466	6,348	+881
借入金	6,825	9,537	+2,711
純資産合計	77,016	75,952	▲1,064
株主資本計	62,498	59,124	▲3,374
自己資本比率	78.7%	76.2%	▲2.5pts

7. 設備投資・減価償却費推移

単位：百万円



単位：百万円



8. 地域別・製品別売上高

■ 地域別

単位：百万円

	2023年度		2024年度					3Q累計 前年同期比	
	3Q累計	構成比	1Q	2Q	3Q	3Q累計	構成比	増減額	増減率
日本	7,328	17.8%	1,810	2,336	2,426	6,573	15.6%	▲756	▲10.3%
中華・韓国圏	16,459	40.0%	5,105	6,275	7,469	18,850	44.7%	+2,391	+14.5%
アメリカ	4,832	11.7%	1,598	1,612	1,188	4,399	10.4%	▲432	▲9.0%
欧州	7,065	17.2%	2,305	2,418	2,023	6,747	16.0%	▲318	▲4.5%
ASEAN	5,454	13.3%	1,714	1,981	1,901	5,597	13.3%	+143	+2.6%
合計	41,140	100.0%	12,534	14,624	15,009	42,168	100.0%	+1,028	+2.5%
【ご参考】 ERP影響除く	41,140		13,234	14,624	15,009	42,868		+1,728	+4.2%

■ 製品別

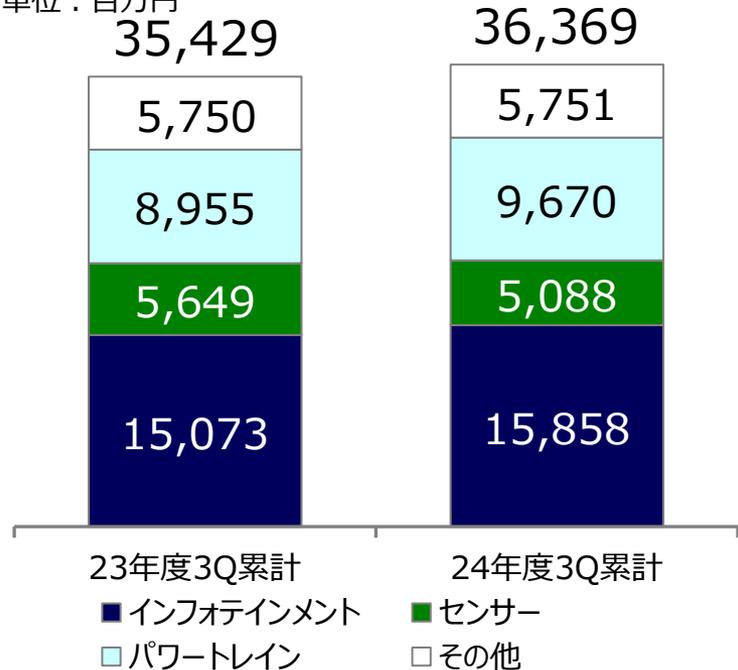
単位：百万円

	2023年度		2024年度					3Q累計 前年同期比	
	3Q累計	構成比	1Q	2Q	3Q	3Q累計	構成比	増減額	増減率
BtoB	17,940	43.6%	5,333	5,918	5,989	17,241	40.9%	▲699	▲3.9%
FPC	8,232	20.0%	2,649	3,186	3,032	8,868	21.0%	+636	+7.7%
車載IF	11,979	29.1%	3,630	4,457	5,025	13,113	31.1%	+1,133	+9.5%
ピンヘッダー	1,974	4.8%	553	575	558	1,687	4.0%	▲286	▲14.5%
その他	1,012	2.5%	367	486	404	1,257	3.0%	+245	+24.2%
合計	41,140	100.0%	12,534	14,624	15,009	42,168	100.0%	+1,028	+2.5%

9. 市場別売上：モビリティ

■ 前年比+939百万円 (+2.7%)

単位：百万円



インフォテインメント

- ・3Q累計前年比: +5.2%
- ・液晶パネルや電子制御(ECU)用の高速伝送対応可動BtoBコネクタが堅調

センサー

- ・3Q累計前年比: ▲9.9%
- ・搭載車種の台数減と、一部顧客で機器の構造変化によりレーダー向けは減少
- ・カメラ向けは顧客拡大により増加

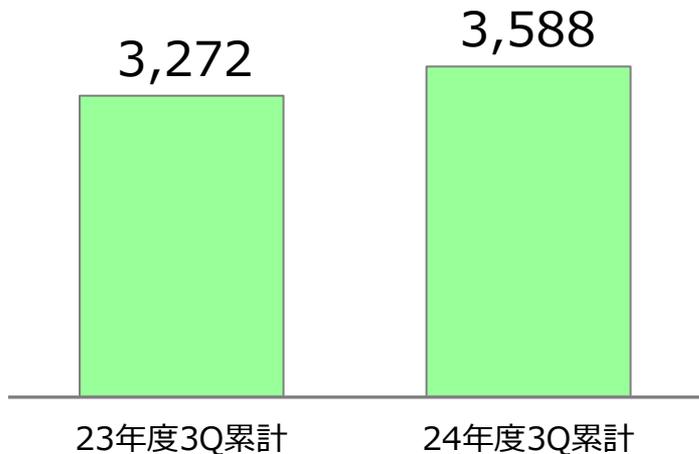
パワートレイン

- ・3Q累計前年比: +8.0%
- ・BMS(Battery Management System)、インバータ用コネクタが堅調

	23年度				24年度			YoY	QoQ
	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q		
インフォテインメント	4,668	5,606	4,797	5,635	4,909	5,583	5,366	+11.9%	▲3.9%
センサー	1,825	2,069	1,753	1,862	1,659	1,672	1,755	+0.1%	+5.0%
パワートレイン	2,190	3,674	3,091	2,983	2,656	3,288	3,725	+20.5%	+13.3%
その他	1,849	2,101	1,800	1,911	1,719	2,088	1,943	+8.0%	▲6.9%
合計	10,534	13,452	11,442	12,393	10,944	12,632	12,791	+11.8%	+1.3%
【ご参考】ERP影響除き	10,534	12,552	12,342	11,693	11,644	12,632	12,791	+3.6%	+1.3%

■コンシューマー市場：前年比+316百万円 (+9.7%)

単位：百万円

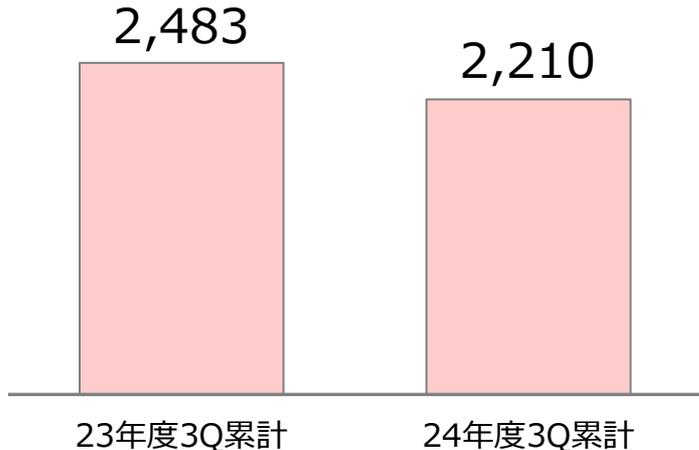


- ・3Q累計：プリンター、デジカメ向け中心に売り上げ拡大
ゲーム機向けは下振れ継続
- ・3Q単独：今期2Q比では、季節変動によりゲーム機向け減

23年度				24年度			YoY	QoQ
1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q		
1,130	1,307	835	1,065	1,042	1,319	1,227	+46.9%	▲7.0%

■インダストリアル市場：前年比▲227百万円 (▲9.3%)

単位：百万円



- ・3Q累計：FA関連機器向けの販売不振継続
エネルギーマネジメント分野の売上拡大
- ・3Q単独：中国でのESS(Energy Storage System)向け需要増に対する受注活動強化

23年度				24年度			YoY	QoQ
1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q		
831	884	722	671	547	673	990	+37.2%	+47.1%



I. 2024年度第3四半期 業績概要

II. 構造改革

III. 2024年度 業績見通し

IV. トピックス

■ 24年度計画した8項目の重点施策の内、2項目の進捗状況

重点施策	進捗状況
<ul style="list-style-type: none"> ・2025年秋田工場の稼働を踏まえ、各工場の役割分担を見直し、拠点再整備・生産性向上施策の策定 	秋田工場 <ul style="list-style-type: none"> ・2024年10月末：竣工 ・2025年4月：稼働開始予定
<ul style="list-style-type: none"> ・新ERPシステムの円滑な立上げと業務標準化の定着、改善効果の実現 	<ul style="list-style-type: none"> ・2024年4月：新ERP導入 ・2024年7月頃：本格稼働

■ 上記施策の進捗状況より、生産拠点の役割見直しによる生産効率改善と新ERPによる業務効率改善の実現に向け、構造改革を実施し、原価構造の改善を推進

構造改革の施策	構造改革費用	年間効果額
<ul style="list-style-type: none"> ・茨城工場の機能見直し <ul style="list-style-type: none"> ・量産製品の秋田工場への移管による生産効率向上 ・試作・サンプル製作等エンジニアリングセンター、並びに部品供給拠点として再整備 	約18.9億円	約2.6億円
<ul style="list-style-type: none"> ・本社および茨城工場の人員の最適化 50歳以上の社員を対象に希望退職者募集を実施(国内人員の約10%) 	約5.6億円	約4.4億円 ※25年度は約3.3億円



I. 2024年度第3四半期 業績概要

II. 構造改革

 **III. 2024年度 業績見通し**

IV. トピックス

1. 2024年度 業績予想

■ 3Qまでの売上動向と構造改革を踏まえ、通期計画を修正。配当は据え置き

4Q為替レート：ドル:150円、ユーロ:160円、中国元:20.5円

単位：百万円

	2023年度	2024年度		修正計画	
	通期	通期 前回計画	通期 修正計画	前年比	前回計画比
売上高	55,271	54,000	55,000	▲271 ▲0.5%	+1,000 +1.9%
売上原価率	69.0%	71.0%	70.0%	+1.0pts	▲1.0pts
営業利益	5,936	4,300	4,700	▲1,236 ▲20.8%	+400 +9.3%
営業利率	10.7%	8.0%	8.5%	▲2.2pts	+0.5pts
税引前利益	6,869	3,800	1,750	▲5,119 ▲74.5%	▲2,050 ▲53.9%
当期純利益	5,593	2,750	1,350	▲4,243 ▲75.9%	▲1,400 ▲50.9%
EPS	237.75円	120.71円	59.55円		
為替レート 期中平均	ドル：144.40円 ユーロ：156.80円 元：20.14円	148.93円 162.94円 20.62円	152.20円 163.78円 21.04円	+7.80円 +6.98円 +0.90円	+3.27円 +0.84円 +0.42円
設備投資	9,049	8,000	8,500	▲549	+500
減価償却	6,326	6,900	6,900	+573	-
配当	90円	100円	100円	+10円	-

2. 2024年度 市場別売上高計画

単位：百万円

	2023年度		2024年度				修正計画		3Q累計 進捗率
	実績	構成比	通期 前回計画	構成比	通期 修正計画	構成比	前年比	前回 計画比	
モビリティ計	47,823	86.5%	47,300	87.6%	47,550	86.4%	▲0.6%	+0.5%	76.5%
インフォテイン メント	20,708	37.4%	20,900	38.7%	20,450	37.2%	▲0.2%	▲2.2%	77.5%
センサー	7,512	13.6%	6,450	11.9%	6,550	11.9%	▲12.8%	+1.6%	77.7%
パワートレイン	11,939	21.6%	12,250	22.7%	13,100	23.8%	+9.7%	+6.9%	73.8%
その他	7,662	13.9%	7,700	14.3%	7,450	13.5%	▲2.8%	▲3.2%	77.2%
コンシューマー	4,338	7.8%	4,200	7.8%	4,550	8.3%	+4.9%	+8.3%	78.9%
インダストリアル	3,109	5.6%	2,500	4.6%	2,900	5.3%	▲6.7%	+16.0%	76.2%
合計	55,271	100.0%	54,000	100.0%	55,000	100.0%	▲0.5%	+1.9%	76.7%

3. 経営環境変化と対応（再掲）

	状況	対応
事業環境	<p>[モビリティ市場]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・日欧米自動車メーカーの販売不振、EV市場の減速 ・インフォテインメントのナビ・オーディオ、センサーのミリ波の売上縮小の加速 ・パワートレイン分野の成長減速 ・中国自動車メーカーの台頭と価格競争の激化 	<ul style="list-style-type: none"> ・統合ECU関連製品の計画を上回る事業拡大の推進 →現在の高速伝送対応製品に加え、次世代高速対応製品、スケーラブルコネクタでの市場開拓の強化 ・パワートレイン分野での業界No.1地位構築 →価格対応・コスト力強化、中国での当社シェア奪還 →Z-Moveラインアップ拡充等、電池周り製品の拡販 →軽量化・薄型化、欧米規格対応製品の開発、一部量産化 ・センサー分野:共同開発による新製品の早期量産化 ・DX活用による製品開発、設備標準化による売上拡大
	<p>[インダストリアル市場]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・産業機器需要の低迷継続 	<ul style="list-style-type: none"> ・PLC、ロボット用コネクタのW/W事業拡大推進 ・新規商社採用、調達品活用による新規顧客開拓、売上構築 ・AI、半導体製造装置、通信、エネルギーマネジメント分野開拓
コスト競争力	<ul style="list-style-type: none"> ・金、銅等素材価格の高騰、輸送費の高止まり 	<ul style="list-style-type: none"> ・めっき合理化設備を有する工場稼働率向上による原価低減 ・省金化製品の拡大、並行して主要ベンダーとの連携による金めっき厚の薄膜化を現在検討中 ・新ERP本格稼働による間接コスト削減、リードタイム短縮 ・秋田工場新設による全生産拠点の体制・役割見直し

4. 経営環境変化への対応の進捗

進 捗

事業
環境

[モビリティ市場]

・統合ECU関連製品

次世代高速伝送対応製品：顧客と商談を開始、製品評価中

・パワートレイン分野

軽量化・薄型化新製品の量産移行へ

・センサー分野

米中顧客への拡販活動強化、共同開発による試作品3月完成予定

・DX活用による製品開発、設備標準化

図面・3Dモデル、接触・圧入の設定値等をデータベース化し、製品開発の標準化、開発期間の短縮を推進

標準組立設備製作による開発～量産リードタイム短縮

[インダストリアル市場]

・世界最大規模の半導体・電子部品商社のArrow Electronicsと販売代理店契約を締結、新規顧客開拓推進

・中国でのエネルギーマネージメント分野の売上拡大

コスト
競争力

・新ERP本格稼働、秋田工場竣工

→茨城工場の役割見直し、構造改革の実施へ



I. 2024年度第3四半期 業績概要

II. 構造改革

III. 2024年度 業績見通し

 **IV. トピックス**

■ 茨城工場が100%再生エネルギー由来電力化を達成

- ・東急不動産株式会社、株式会社リエネと「オフサイト型コーポレートPPA契約」を締結
(PPA:Power Purchase Agreement)
- ・東急不動産株式会社が保有する株式会社リエネを通じて供給する「リエネ埼玉寄居太陽光発電所」で発電した再生可能エネルギーを、2025年1月より当社茨城工場へ供給開始
- ・茨城工場は当社が設置した太陽光パネルと合わせ、100%再エネ由来電力化を達成

■ 「2025年 電力由来CO2排出実質ゼロ」実現に向けたスケジュール

	日本		中国		フィリピン	ベトナム
工場	茨城工場 	秋田工場 	上海工場 	南通工場 	フィリピン工場 	ベトナム工場 
スケジュール	2025年1月 達成済	2025年4月	2025年4月	2025年4月	2025年4月	2025年4月
調達方法	オンサイト・オフ サイトPPA、再 エネ電力契約	再エネ電力 契約	再エネ電力 契約	再エネ電力 契約	再エネ電力 証書	再エネ電力 証書

会社名	イリソ電子工業株式会社
事業内容	各種コネクタの製造・販売
設立年月	1966年12月
社員数	3,037名(2024年3月31日現在)
資本金	5,640百万円(2024年3月31日現在)
本社	神奈川県横浜市港北区新横浜2-13-8
営業拠点	
国内	本社、福島県、愛知県、大阪府
海外	シンガポール、香港、アメリカ、ドイツ、タイ、韓国 中国(上海、大連、天津、蘇州、深圳、重慶)、台湾、インド
研究開発	本社(イリソテクノロジーパーク)、 川崎(生産技術センター)、岩手県(花巻工場)、上海R&Dセンター
工場	茨城県、中国(上海、南通)、フィリピン(マニラ)、 ベトナム(ハイズオン)

コネクタの種類

基板対基板コネクタ (BtoBコネクタ)

プリント基板の接続用に開発されたコネクタの総称でボード・ツー・ボードコネクタ(ボードtoボードコネクタ)とも呼ばれる。垂直接続、平行(スタッキング)接続、水平接続など組み合わせで、さまざまな接続が可能となる。B to B (ビー・ツー・ビー)は、当社の登録商標として市場で広く浸透している。

FPC/FFCコネクタ

FPC基板(Flexible printed circuits)やFFCケーブル(Flexible flat cable)の接続用に開発されたコネクタの総称。コネクタの挿入時に力を加えずにロック可能なZIF(Zero insertion Force)タイプ、挿入したときに力が発生するNON-ZIFタイプがある。

IFコネクタ

IFとは、インターフェイスの略で、機器間の信号の接続を行うコネクタのことで、I/O(インプット/アウトプット)コネクタとも呼ばれる。カーナビ、PCなどさまざまな機器の側面(裏・表面)に装着され、機器への電源供給、音声・映像信号データなどの入出力を行う。

ピンヘッダー

線材をカット加工した“ピン(電導体)”をハウジング(樹脂材でできた絶縁体)で支えたプラグ(オス側)コネクタの基本形であり、さまざまな分野・機器の内部接続(基板間接続)に使用されている。横から見ると、生け花の花止め“けんざん”のように見えるのが特長。メス側はソケットと呼ばれる。

この資料に記載されております業績の予想数値につきましては、本資料の発表日現在で得られた入手可能な資料に基づいて作成したものであり、今後の様々な要因により予想数値と異なる可能性があります。

当社といたしましては、投資家の皆様にとって重要と考えられるような情報について、その積極的な開示に努めて参りますが、本資料記載の見通しのみに依拠してご判断されることはお控え下さるようお願いいたします。

なお、本資料の利用の結果生じたいかなる損害についても、当社は一切責任を負いません。

私たちは、社会やお客様の期待を超える「つなげる」を実現します
Together, surpassing expectations by empowering connections
to enrich society and delight people.